

は 歯の 特徴が 新種の 決め手



【写真上】ヤマトサウルスの左下あごの化石(レプリカ)を持つ高崎研究員。何十本もの歯が並んでいます。矢印が歯のすり減り面です

【同下】ヤマトサウルスの復元画(左側の恐竜) 画：服部雅人

4月27日に新しい恐竜の学名が公表されました。「ヤマトサウルス・イザナギイ」です。名前を付けたのは、私の大学で研究員をしている高崎竜司さんが参加する研究グループです。長さが8センチで重さが4〜5グラムと言いますからゾウ並みの大きさですね。

「すごい全身骨格が見つかったのかな？」
実は見つかったのは、左の下あご、首、肩、尻尾の骨の一部分だけです。「えーっ。それで名前が付けられるの？」
はい、ほかの恐竜と明らかに違いが見つかれば、新しい名前がつけられるんですよ。恐竜の骨が見つかる論文が出版され、博物館に化石が保管されます。高崎さんたちは、それらと比較して、新種にするかどうかを決めたんです。今回は、食べた植物をすりつぶす歯のすり減り面の特徴

がほかの恐竜と違うことが決め手になりました。肩の骨の形からは、ヤマトサウルスが含まれる植物を食べる恐竜グループ(ハドロサウルス類と呼ぶ仲間です)の中でも、古いタイプの特徴をもっていることがわかったんですよ。

ところがこの新種恐竜の化石を見つけたのは化石が大好きなアマチュアの方なんです。実は、新種化石はアマチュアの方が見つけること

動画で解説
石垣館長が記事中の恐竜などを解説する動画はQRコードから。

恐竜調査隊が行く

岡山理科大学 恐竜学博物館館長 石垣忍



淡路島から出たヤマトサウルスの化石

豆知識

ヤマトサウルスが生きていたのは約7200万年前。当時、日本は大陸の一部。しかも、私たちが恐竜を毎年掘っているモンゴルの地層と淡路島南部の地層はほぼ同じ白亜紀後期の時代です。モンゴルと日本の研究がつながるのもおもしろいところ